

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：GENKIDS緑園都市保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：平川 桂子	定員（利用人数）：58名 （利用人数：56名）
所在地：〒245-0002 横浜市泉区緑園2-1-3 プラード2階	
TEL：045-814-5495	ホームページ： https://www.nihonhoiku.co.jp/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日： 2004年10月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社日本保育サービス	
職員数	常勤職員： 12名 非常勤職員： 9名
専門職員	園長 1名 主任 1名
	保育士 14名 看護師 1名
	栄養士・調理師 4名 事務 1名
施設・設備 の概要	保育室 6室 トイレ 2ヶ所
	調理室 1ヶ所 事務室 1室
	園庭 有

③理念・基本方針

〈保育理念〉

「未来（あす）を生きる力を培う」自分らしく生きる道を歩み、どんな時代にも対応できる資質と能力を 培います。

〈保育方針〉

一人ひとりに心をかけ、愛情を注ぎ成長に合わせたきめ細やかな保育を行うことで、変化の激しいこれからの社会を生き抜くための“生涯にわたる生きる力の基礎”を育みます。

- ・自ら伸びようとする力を支えます
- ・五感を養って感性を豊かにします
- ・後伸びする力を育みます

〈保育目標〉よく遊び よく食べ よく寝て 元気な子

④施設・事業所の特徴的な取組

園は認可保育園として18年目ですが、開設は平成13年4月で開設後21年目を迎えました。

園は、相鉄いずみ野線「緑園都市」駅下車、駅前通りの坂道を2分ほど上がった4階建てビル2階にあります。

周辺は計画的に開発された区画整理区域内で整然とした住宅街が広がり、駅の反対側には遊歩道や幾棟もの高層マンションが並んでいます。各丁目ごとに樹木豊かに公園が整備され、四季の自然に恵まれています。

子ども達はこうしたいくつもの公園を散歩に利用したりして伸び伸びと過ごしていま

す。すぐ隣のビルに小児科があり、駅付近には医療機関も充実しています。英語・体操・リトミック・ダンスといったプログラムを実施し、未来を担う子どもたちの興味や関心の芽を育てることを目的としています。また、4,5歳児はもじかずらんどにより子ども達が就学時に自信をもって学習に取り組めるよう、幼児期から学習に対する非認知能力（興味や意欲、集中力等）を育むプログラムです。「もじ」では読み書きだけでなく、見聞きした言葉・文を理解する事や、言葉で表現する事を体験します。「かず」では教材やワークで分かりやすく、順序立てて数の概念を形成していきます。数を合わせたり分けたりする力を養います。4,5歳の担任は何時間もの講習を受けており、講師としての認定書も受理しております。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年8月1日（契約日）～ 令和5年4月21日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2017年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)地域交流で子どもの生活と遊びが豊かになっています

法人の変更に伴い、1歳児から専門講師による、英語、リトミック、体操、ダンスがカリキュラムに加わっています。4、5歳児は、もじかずらんど（幼児教室）の時間があり、さまざまな表現活動をしています。戸外で体を動かすことも大切と考え、午前のほか夕方も園庭遊びや散歩に出かけ、五感で自然を感じるようにしています。その他、消防署や交番、定期的な訪問があるプロの紙芝居師との交流、地域イベントに参加すること等で地域資源を活用しています。さらに今年度は相模鉄道職員の来園もあり、楽しいひと時を過ごしています。園では地域の人に接する機会、社会体験が得られる機会を多く持ち、子どもたちの生活と遊びが豊かになっています。

2)「健全な子育てを支える地域の拠点となる」ための実践をしています

中・長期計画の目標の一つに「健全な子育てを支える地域の拠点となる」があります。鉄道会社や緑園地区社会福祉協議会と連携し、委員会や活動時に地域の特徴や福祉ニーズの情報を共有しています。緑園地区社会福祉協議会の「キッズフェスティバル」に近隣の保育園3園合同で参加し、相談会を実施しました。子育て支援事業として一時保育や、ほぼ毎月の園庭開放、交流保育、離乳食の進め方・正しい手洗いの仕方の講習会などを行っています。地域の拠点となるための活動を実践しています。

3)安全への取組に力を入れています

安全チェックリストを基に、園内外、設備、戸外活動時の安全点検、事故防止に取り組んでいます。玄関に掲示しているさんぽマップに、公園や途中の注意事項、危険箇所などを記入しています。事故防止、安全対策などについて、園内研修や職員会議で確認しあっています。職員が気づいた危険なことやヒヤリハットを付箋に書き、一覧にしており、1ヶ月で30件ほど事例が集まっています。検証するとともに、保育を見直す気づきが職員の間広がっています。

4)法人変更後にも継続する保育の周知が期待されます

令和4年4月に変更になった現法人の経営理念・コーポレートメッセージ・グループ運営理念・保育理念・保育方針のほか、旧法人から継承している園目標「よく遊び、よく食べ、よく眠る」についても園の目指す保育の指針の一つとして意識しています。法人変更後のさまざまな変更点と、変わらず継続しようとしている保育について職員や保護者に丁寧に周知をしていくことが望まれます。

5) 法人と管理職、職員の協力体制が望まれます

法人は必要な職員確保の計画を作り人材確保・定着に取り組んでいます。園では管理職による働きやすい環境作りと人材育成に取り組んでいます。保育に取り組む中で、職員不足などを感じています。園の取組と職員の理解の間に課題もあり、今後、お互いの信頼のもと、園運営を行う上での協力体制が望まれます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

4年前に第三者評価を受審して以来の実施となりました。

前回同様、日頃の保育を客観的に振り返る良い機会となりました。

3年前よりコロナ禍において保育や行事の制限や休園等、これまでに経験したことのない園生活となりましたが、限られた時間での話し合いを重ね、常に園児の安全を最優先に考えながら園の運営を図ってきました。

その結果、法人の運営方針の変更や新しい取り組みにも柔軟に対応できたのではないかと思います。

職員の思いも様々ですが、振り返りと評価しながら共有する事ができました。保育計画では中長期計画の周知が行き届いていないところ、また、職員の入れ替わりが多い所に課題を感じました。

設備面においては、改善を繰り返しながら園児が安全に過ごせる環境を整え、また、職員の働きやすい環境を考えながら行ってきました。今後更に法人と協力しながら改善していきたいと考えています。

保護者の皆様、アンケートのご協力頂きありがとうございました。

アンケートの結果や自己評価での気づきなど、課題については引き続き高い意識を持ってより良い方向を見つけられるよう取り組んで参りたいと思います。

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり